



「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第68号 令和3年10月3日

わくわくスクール「羽田水辺の楽校」

10月3日（日）に、羽田水辺の楽校が開催されました。元々9月に予定して本わくわくスクールは、緊急事態宣言の延長により延期となり、2日前にも大型台風第16号が関東地方に接近するなどし、無事にできるのか不安でありました。しかし、当日は不安を吹き飛ばすような好天に恵まれ、教育関係者としては、子どもたちの体験を確保できたことはこの上なき幸せとなりました。

参加する子どもたちは、保護者の同伴での希望者です。1年生から5年生までの合計32名が大師橋干潟に集合しました。保護者も含めると60名を超えていました。すでに汚れることを想定し、長袖、長ズボン、長靴という、アクティブないでたちの子どもたち。（どんな生き物がいるのだろう。）と、ガイドさんの大事な説明を聞き、干潟に入っていました。

カニ、カメなどの生き物を捕まえ、バケツに入れ、観察をしました。観察は虫眼鏡です。「うわあ、カニをさわった!」、「カメが欲しい。」という、楽しい悲鳴があちこちに響きわたりました。本校から参加してくださった橋本先生や斉藤先生が所々で子どもたちに生き物の取り方をアドバイス。誰もがたくさんの生き物を捕まえることができ、本当にうれしいんだろうなと思いました。本や映像でなく、本物の干潟の生き物を捕まえ、観察したり育てたりする体験は、いずれは人生の経験となり、物事を考え、何かを決断し、粘り強く取り組む時のベースとなると信じています。まさに生き方の縮図が体験活動であるといえ、主体性や創造性、問題解決の力の源です。豊かな体験がある子どもは、読書をよくすることも分かっています。体験活動は、学ぶ力を育てるための一つの術ともいえるでしょう。

約2時間の体験は、事故もなく、無事に終わることができました。このような体験の場をくださった羽田水辺の楽校の多摩川とびはぜ倶楽部の皆様、そして、スクールサポート糀谷の皆様、誠にありがとうございました。

